



当日のタチウオ仕掛け

Tackle Guide

基本的には1本バリ仕掛けがお勧め。1本バリのほうがエサの動きもよい。アピール力も強い。昔のように魚影が少なかったが、魚影が濃い。現在は1本バリ仕掛けで効率よく誘うのがよいと思う。

本サイズの良型だった。それから少しして良型を抜き上げたのは、右舷胴の間に座った平林さん。親子で竿を出していたが、船上で同姓の方と一緒するのは初めてなので、なんとなくうれい。そんな感じでポツポツ釣れるが、掛かるのはテンヤばかりで、テンビン釣りのほうは沈黙といった状況。タチウオ釣りは、いつものように様子が変わるか分からない。群れがサッと消えたり突然現れるのは当たり前で、過去にもずいぶん悩まされた。

テンビン釣りも順調に

8時ごろ、左舷胴の間で竿を出す常連氏が90センチのタチウオを抜き上げ、テンビン釣りの船中1号がようやく上がった。じゃあ僕も……と竿を出す。このときの指示ダナは37〜40メートル。リールのハンドル半回転の誘いで、止めの時間をやや多めに様子を見る。それから30分ほどやって一度アタリがあったが、8時半前に37メートル付近のタナでようやくヒット！

小型も交じる



かハリ掛かりしない。逆にテンビン釣りの調子が上がってきたようで、僕も再び同サイズの2本目をゲット。9時過ぎからはさらにアタリが多発。本誌愛読者の沼尻さんは、左舷ミヨシで電動ズル巻きシャクリで誘いながら釣っていたのだが、これが面白いように掛かる。カメラを手にして観察しながら沼尻さんに話しかけると、「いつもこんな感じの釣りをしているけど、リールのズル巻き速度もその日によって変わる。パターンが合うと、面白いように釣れるんですよ」とのこと。

感じに誘って。さっそく釣り座に戻って試したら2本釣れたが続かない。沼尻さんと同じパターンで誘っても、圧倒的に沼尻さんが釣るペースが上だ。まあ、そりゃあそうでしょうというところで従来の慣れた誘い方に戻すことにした。船は大津沖から走水沖を移動して、転々と反応を探る。船の数は多いが、超接近して団子状になるほどではないので、好反応がドーンと出ている感じではないのかも。それでもポツポツとタチウオをゲットできたが、アタリがあってもなかなか食い込んでくれずイライラする時間もある。

納竿の1時までそんな調子で釣れ続けて、僕はなんと10本。左の常連氏は12本、テンビン釣りの釣果は一人2〜20本。電動ズル巻きシャク

船宿information

三浦半島新安浦港

義和丸

☎046-825-0078

(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ショートタチウオ

乗合一人8000円(エサ、氷付き)

▶備考=予約乗合、7時15分出船。テンヤ用イワシ

は10尾付き、追加イワシは10尾700円で販売。

駐車場500円



村上 優輝船長

りの沼尻さんが竿頭だった。テンヤ釣りは一人4〜10本、右舷大ドモの常連氏が10本で、120センチクラスも交じっていた。平均釣果は4〜5本といった感じだろうか？



▲テンビン、テンヤともに取り込みはハリスをつかんで抜き上げる



▲東京湾のタチウオは10月後半も大いに期待できそうだ

▼その都度アナウンスされる指示ダナを聞き逃さないように



港を出て右に舵を取り10分ほど走ると、あつという間にポイントの天津沖へ到着。海上は北風が強く、海はやや荒れ気味。しばらく反応を探してからスタートとなる。水深は50メートルで、指示ダナは35〜45メートルとのこと。スタート早々の1投目、右舷ミヨシの四栗さんの竿が曲がった。巻き上げてくると、メーターオーバーはありそうなタチウオがテンヤに掛かっていた。四栗さんは義和丸の常連だが、「いやあ、いきなりきたから俺もビックリしたよ」と驚いた様子だった。

るのに対し、左舷のテンビン釣りはアタリもないようだ。続いて竿が曲がったのは右舷大ドモで、110センチ指幅5

「僕が若かりしころの海」とはずいぶんと変わった。とくにここ数年の変化はすごい。東京湾ではアイナメが激減、メバルも以前と比べパツとしない。逆にアジやクロダイ、タチウオなどは個体数が増えている。昔はタチウオ自体そんなに釣れなかったのに、それがここ何年もの間釣れまくっている。

義和丸は古くからタチウオ釣りを看板にしている老舗の船宿だ。東京湾のタチウオ釣りの鉄板釣り場である猿島、観音崎沖が目と鼻の先という地の利もある。6時過ぎに港に到着。義和丸のタチウオ船はショート乗合で、この日は右舷がテンヤ釣り、左舷がテンビン釣りと釣り座が指定されていた。義和丸ではテンヤ釣りはPE2号テンヤ50号、テンビン釣りはPE2号オモリ80号に統一している。当日の操船は親方の甥っ子にあたる村上優輝船長で、ま

前半はテンヤが優勢

三浦半島新安浦港発！走水沖

本誌ABC(神奈川)平林 潔 Kyoichi Hirabayashi

テンヤもテンビンも楽しい！ 東京湾のタチウオ高位安定

難にテンビン釣りをチョイスし、左舷胴の間に入ることにした。港を出て右に舵を取り10分ほど走ると、あつという間にポイントの天津沖へ到着。海上は北風が強く、海はやや荒れ気味。しばらく反応を探してからスタートとなる。水深は50メートルで、指示ダナは35〜45メートルとのこと。スタート早々の1投目、右舷ミヨシの四栗さんの竿が曲がった。巻き上げてくると、メーターオーバーはありそうなタチウオがテンヤに掛かっていた。四栗さんは義和丸の常連だが、「いやあ、いきなりきたから俺もビックリしたよ」と驚いた様子だった。

知得! Tips and Tricks タチウオの焼肉タレ漬け

ずいぶんと前に亡くなられた三浦半島走水港・勝洋丸の船長に教えてもらったのが焼肉のタレ漬けた。三枚におろした身を細く切って市販の焼肉のタレに漬けておくだけ。冷蔵庫で数日寝かせるとおいしくなり、日持ちもするのでとてもおすすめです。



▶タチウオは釣り味はもちろん食味も魅力



●ひらはやし きよし/マイナス60度の冷凍ストッカーを買い求めた。凍結感が全く違う。凍った保冷剤を素手で取り出したら、指が火傷のようにヒリヒリ。こわーっ。